



資料館だより

NO.54
2015年
12月号

過去と未来がひびきあう
—ようこそ、エコミューズへ。
www.aozora.or.jp/shiryoku/

あおぞら財団付属
エコミューズ
西淀川・公害と環境資料館

水俣市立水俣病資料館にて 資料保存の研究会を開催しました



2013年に公害資料館ネットワークを結成して、公害資料館の交流が始まりましたが、そこで議題になるのは、公害資料の取り扱いの難しさでした。公害資料は、公害被害を受けた患者の資料を多数含みます。病歴といった情報は、プライバシーとして公開については慎重を期すことが求められます。

公害を伝えるためには、資料の保存は必要不可欠です。しかし、公開や活用するためには数多くの手続きが必要となります。そして、情報公開法や著作権法、公立の資料館には公文書管理法など、様々な法律が資料公開には関わってきます。この複雑さを整理するために、2015年9月27日～28日に水俣市立水俣病資料館にて研究会を開催しました。「りべら」138号にも記事を掲載しているので、ぜひご覧ください。

議論の中心は、目録上で公開している個人名の線引きと公開したことによるリスクについてでした。これらの議題については、これからのネットワークでさらに議論を深めることになると思います。議論を重ねて、公害資料館として資料公開・活用がスムーズに対応できるようになりたいです。
(林 美帆)



中国の環境教育の教科書に「西淀川公害」が掲載されました

あおぞら財団のホームページには、中国語のコンテンツが充実していることをご存知ですか？

エコミューズの展示パネルも中国語で発信しています(日本語のコンテンツもあるのでぜひご覧くださいね)。中国の環境NGOとの交流も毎年行っていますが、その交流が一つの形になりました。交流している環境NGOが編集した中国の環境教育の教科書に西淀川公害のことが掲載されたのです。あおぞら財団が行っているフードマイレージや菜の花プロジェクトについても記載されています。

西淀川公害の学びが中国の環境意識を高めるお役にたてるのであれば幸いです。
(林 美帆)

●徳島で西淀川公害のパネル展を開催！●

去る8月7日～23日、徳島県立人権教育啓発推進センター(あいぽーと徳島)で、特別展示「環境汚染がもたらす健康被害、人権侵害 ～人権の視点からの地域再生～」が開催されました。



「公害 みんなで力をあわせて」を中心に、「大気汚染問題Q&A」や「大気汚染公害患者の証言」のパネルを追加し、あわせて公害資料館ネットワークの活動を紹介。夏休み期間で子どもの利用も多ことから、小学五年生向けにあおぞら財団が作成した視聴覚教材「手渡したいのは青い空 ～未来からのメッセージ～」を展示コーナーで上映しました。



期間中、財団の林が記念講演を行い、徳島でもPM2.5が環境基準を上回ることが年に数日あることを紹介すると、「徳島はきれいだと思っていた」と参加者の方は驚いていました。講演

には、徳島の一般市民に加え、環境行政に携わる方や、大学生が夏休みを利用して参加され、講演終了後、個別に質問に来られるなど、関心の高さを感じました。

今年の3月には吹田市の人権啓発巡回パネル展にも西淀川公害のパネルを貸し出しています。公害問題について、環境の観点からだけでなく、人権の観点から見直すことで、新たに関心を持つ人が広がる可能性を感じました。
(栗本 知子)

